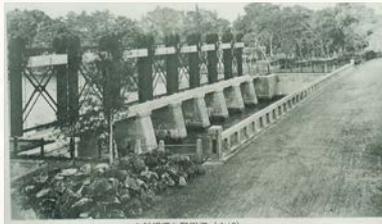


まつぶし 今昔物語



▲現在の古利根堰で、昭和61年(1986)に新たに造成。大正10年の堰よりも少し上流部分に移設。



▲大正10年(1921)に初めて鉄筋コンクリートで作られた古利根堰。これに代わるまでは享保15年(1730)につくった堰枠を使用。

水門のような「古利根堰」

松伏町には、東に江戸川、西に大落古利根川、中央に中川と、3つの川が流れています。越谷市とをつなぐ寿橋から大落古利根川の上流方向を見ると、水門のようなものがあります。これは「古利根堰」とい、大落古利根川の水位を調整するためのもので、最初に設置されたのは寛永7年(1630)という記録が残っています。

古利根堰をダムのように利用し川の流れを制限することで、洪水防止のために隣を流れる逆川へ水を逃したり、稲作が開始される5月頃には、川から水を引き込み、農業用水を確保したりしています。堰の利用時の水位と、普段の水位の高低差は約3メートルにもなります。

また、多くの水を溜めた様子は「松伏溜井」と呼ばれ、昔から親しまれてきました。

川は災害の原因になることもありますが、生活に欠かせない大切な自然資源でもあります。

※「古利根堰」については、『松伏町史 民俗編』に詳しく掲載されています。



町の歴史をまとめた松伏町史を分野ごとに毎年刊行しています。『松伏町史 資料編 原始・古代・中世』(4,000円)販売中！『民俗編』と合わせてぜひお買い求めください！

問合せ 教育文化振興課 社会教育担当 ☎ 991-1873

知ってる？

身近に見かけるこのマーク



Q1

このマークは誰のためのシンボルマークでしょうか？



- (ア) 盲人
- (イ) 紳士
- (ウ) 高齢者

Q2

このマークはどのような意味を表すシンボルマークでしょうか？



- (ア) 遭難 SOS シグナル
- (イ) 迷子 SOS シグナル
- (ウ) 白杖 SOS シグナル

Q1のマークは、「盲人のための国際シンボルマーク」です。視覚障がい者の安全を考慮した建物や設備、機器についています。

Q2のマークは、「白杖SOSシグナル」の普及啓発シンボルマークです。視覚障がいがある方は白杖を頭上50cm程度掲げることで周囲に助力を求めるサインです。

これらのシンボルマークの意味を知って、視覚障がいがある方の助けとなれるように備えましょう。

11466 SOS 旗日 (ウ) (イ) Y 皇 (ア) (イ) 2570

持ちつ持たれつ 地域を創る まつぶし人

相互 上赤岩 扶助 自治会連合会

上赤岩自治会連合会は、松伏町の環境美化活動の一環として、「町の花いっぱい運動」を年2回開催しています。この運動とは、役場から提供してもらった花の苗を町道7号線沿いの花壇に植える活動です。花植え後の除草作業等は、毎月1回行っています。

この他、上赤岩地区内の防犯パトロールを行い、地域の子どもたちを見守り、防犯に努めています。今後も地域の皆さんが安心して生活できる環境づくりを継続していきます。



私たちが植えたお花を見て、きれいに咲いているなと思っていただけたら、嬉しいです。

連合会長 須賀眞弘